

## 第7回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成26年8月28日(木) 18:30～ 20:30
- ◆ 開催場所 第1委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 中原 義勝  
副部会長 渡部 雅子  
部会員 山田 正幸  
稲葉 一彦  
松本 崇之  
成田 育磨  
堀井 貴之 (市庁内検討委員会 部会長)  
【総務部次長】  
沼田 久人 (庁内検討委員会 副部会長)  
【市総務部企画調整 G 総括主幹】
- ◆ 欠席部会員 部会員 田中 寛志  
工藤 隆行  
川島 雅司
- 事務局 【兼】沼田総括主幹、上野企画主幹、西川原主査、菊地主査
- ◆ 議題 「第6章担いあうまちづくり」に関する考え方及び体系図について

### ◎部会長

それでは始めたいと思います。

今回の内容としましては、まちづくりの定義についてなかなか皆さんで共有できない状況にありますので、自分であれば登別をどうしたいかというものをこのメンバーの一人ひとり思いを言っていて、話し合っていくことができればと思っています。

まずは私からお話しさせていただきたいと思います。

私がこのテーマをもらって思いましたのは、これまでも何回か話し合いをしていますが、やはりまちづくりということ言えば、町内会がベースとなるのかなと思っています。

総合計画の委員会、部会でもいろいろ資料提供をいただきましたが、登別のまちはかなり急激なペースで高齢化が進む状況であるということ想定しますと、今の段階でもなかなか単一の町内会として機能していない町内会があるということ聞き及んでいて、そういうことがますますこれから広がっていくんだろうと思います。

まちづくりの基本が町内会にあるんだということであれば、これを維持していくために何か工夫があるのだろうと思ひまして、どうしたらいいのかなと考えましたが、社会福祉協議会が「きずな」の中で福祉活動を推進していますが、この計画の二期計画を作るとき

に、市内のエリアを小学校区でまとめ、それぞれの小学校区の地域住民が集まり、地域の問題を摘出した中で、二期計画を推進しています。

私もなかなか気づかなかったのですが、改めてその地域の人たちが集まり、自分たちの地域の問題を話し合うということは、とても大事なことに感じます。

私はいろいろなところに参加しているので、様々な方と話し合いをしていますが、体系立てて話し合う機会は珍しく、今もこの地域座談会という名称で取り組んでいます。その座談会を通じて、小グループで掘り下げを行っています。

そこを一つの単位として、町内会を組織したらどうなのだろうと思いました。

いろいろ形が想定されますが、今ある町内会を一つの区や班として、いわゆるトップに現状で言えば連合町内会を置き、私の住んでいる鷺別であれば鷺別連合町内会として、小学校区をくくりとした町内会の組織というか、幅広くグループ化した中で町内会というものを運営してみてもどうかと思いました。

次に2番目の課題である市民がどうあってほしいかということですが、そのような取組みを何回か重ねていくうちに、自分たちが、地域住民が住みよいまちづくりを行う。

その様なまちづくりをどうやったら作り上げられるんだろうかということを考えるようになりました。

あくまでも町内会という今の形のをベースにして、今後もまちづくりというものを考えると、その中で町内会の組織をくくりとした中で、その地域に住んでいる人たちがまちづくりについて自ら考える素地を作り上げていってはどうかなということをもった次第です。

私が現在取り組んでいる中で、この市のあり方というのは、ぬくもり部会にも絡むと思いますが、高齢者の支援については地域包括支援センターというのが今できていて、高齢者の見守りというのはここが中心となって全国的にやっているのしょうけれど、この手法を子育てにも適用できないのかなと思います。

高齢者に対する取組みはこのぐらいが限度なのかなと思いますし、あまりやってもやりすぎじゃないのかなと思っています。

それであれば室蘭市も市長が子育て支援ということをやっていますし、具体的にどういうことでやるのかはわかりませんが、この地域包括支援センターの手法を子育て支援に活用できないかと、高齢者の見守りも、地域の人たちと連携を取りながら、地域包括支援センターと一緒に取り組んでいます。ここもやはり今いる民生委員、あるいは児童委員が、この地域に生まれた時からその地域との結びつきを、子育て支援の形を作っていくと、いまちができると考えてみました。

私の方からは以上です。

## ◎副部会長

いろいろと考えてみました。

私は、公募での参加ですので公募にあたり作文を提出していますが、私もいろいろな思いがありますので、たぶん行政の方に伝わっていると思いますが、他の方はご存じないと思いますので、この作文を中心にお話したいと思います。

私は、「協働」という言葉にすごくこだわりを持っています。

昔は「きょうどう」とは共に同じと書きましたが、今は協力して働くが多くなっています。

これはなぜかと自分で考えてみて、いわゆる地方自治は、住民自治と言われるぐらい、市長も直接自分たちが選びますし、議員も直接選びます、そのようなことから、地方自治といわれるんだろうと思いますが、市民の中では、多くの方が、市役所が上で市民と議会がしたという認識を持っている方がいると感じますが、私は違うなと思います。

三角形で表現すると、市民が三角形の一番上で、両側に行政と議会がいると感じました。

そう考えると協働とは、市民が自分の住んでいるまちを作るときの主人公になるべきじゃないかなと思い、それぞれが協力して働くという意味じゃないかなと思います。

辞書を調べたわけではなく、それが正確かどうかわかりませんが、私はそのように感じています。

この部会の中で協議した時にいろいろな苦情があると聞きますが、建設的な意見はなかなか出ないとも皆さんから聞いていますので、そのような意識を市民の一人ひとりに持ってもらうというのがまちづくりの基本にあるのではないかと感じています。

私自身も前に言いましたが、男女共同参画社会の実現が自分の中心的な仕事というか自分のやりたいことですので、それに取組んでいます、その視点で言えば、町内会の中で会長ですとかいろいろな役割の中で女性の占める割合は多くはなっていますが、同じ女性として残念なことですが、家庭が忙しいという理由で、積極的でない場合も多いようです。

それは私自身も感じますので、女性たちが自分の意見を持って、意思表示できるようなそういうまちづくりをぜひしたいものだと思っています。

これはこれから私自身も努力して広げていきたいなと思いますし、それには男性と一緒にやらないと、女性だけでは絶対やれないことですので、男性と協力しながら、協働しながらことを進めたいと思っています。

もうひとつまちづくりをするうえで私が考えたのが、未来の登別を担う子どもたちが、このまちづくりに、大人が作ったまちづくりの絵の中に乗っかるだけではなく、子供たちが自分たちがどんなまちにしたいのか、たぶん最初は非常に幼稚かもしれないけれど、そのような経験を重ねていくなかで、自分のまちに愛着を感じるようになると思います。

そうなれば、そこに住み続けたいと思いますし、愛着を持てば、きっと地元の企業があればそこで働きたいと思います。

そのようなまちをつくりたいなという思いです。

これがまちづくりの基本と感じますし、そのために何をすればいいのかなとも思います。

そのためには、いろいろな例えばこのような機会に、すごく時間のかかることですが、女性の参画ですとか、高齢者層も子どもたちも、そのような場が作られていくことが必要かなと思います。

そのようなことをぜひこの部会で提言できたらいいなという思いがあります。

そのためには、学校に協力いただかないといけませんし、勝手にはできませんので、教育委員会との関係も出てきますし、様々な団体と協力をしながらぜひやってみたいと思います。

特に子供たちに、次期の登別を担う子どもたちに、人口が減っていくわけですから、これ以上流出しないためには、子どもたちにまちに愛着を持ってもらう、そして登別の歴史を知ってもらって、その上でここに住み続けられるようにしたいなと思っています。

## ◎部会員

登別市のまちづくりとしては、自然を生かしたまちづくりを考えるべきと考えます。

海、川、山が豊富なだけに、それをうまく活用したまちづくりが必要で、海で言えば人工海水浴場をつくってそこに展望台を作る。

もともと富浦界限は海水浴場だったのですが、そこを人工的に海水浴場にすれば、海のないまちから、例えば旭川とかから来た人たちが、これは海の近くに住んでいるのでよく見るのですが、車を止めて海を眺めているんですね。

このまちには海をじっくり見る場所がないと思います。

苫小牧とか白老に帰っている人がいると、海のないまちからきている人は、展望台に上がって眺める。

海鮮市場の設置ということで、登別漁港とマリンパークとJR登別駅を結びました。

あの周辺を開発して、漁港をうまく活用すれば、道の駅もエリアの中につくって、温泉に泊まった人がここにきて色々海産物を買ったり食べたり、そういうことができたり、函館をイメージしたのですが、このような取組みが出来ないのかと思う。

川は登別川と幌別川と鷺別川という大きな川があって、溪流の魚釣りができるとか、なかなか最近溪流釣りというのが近場でできないので、有料化して釣りを楽しめるまちができないのか。

河川敷の運動公園化ということで、ウォーキングコースだとかパークゴルフ場がほかのまちではよく見かけるので、うまくこれを利用して。幌別ダム周辺の整備ということで、あそこはやはり素晴らしいダムだと思うんですけど、全然活用されていない。

ですから、あの近くにオートキャンプ場を作って、ボートに乗ることができたり、釣りができるようにするのも良いと思います。

山については、オロフレ山、来馬岳、カムイヌプリ、室蘭岳と、1000m 前後の山が4つあるわけですけど、ここに山が好きな人をうまく呼び込めないかと思っています。

私もあちこち山を登りましたが、登山する施設としては、ほかの山から見るとかなりお

粗末で、こういう山があるとPRすることもないし、オロフレ山だって、この4つの山それぞれ特徴があって、山の好きな人で、他のまちから来ている実績もありますので、まず登山道の整備ですとか高山植物の保存と増殖、山小屋の設置、四つ山がありますが、宿泊して自炊のできる設備というのがない。

そういう設備をどこかに一つ作れば、そこを拠点として4つの山に2日ぐらいに分けて登るとか、最後は温泉につかって帰るとか付加価値も出てくると思います。

フォレスト鉱山については、とても良い場所だと思いますが、子供中心の運動場だとか研修施設をもう少し整備すればさらに人を呼ぶことができるなと思います。

札内は、富良野とか美瑛みたいに花畑を作って温泉に来た人が札内をぐるっと回ってそこで食事をしたり買い物ができるという、動物を中心とした景観の整備、そのような取り組みをすることで札内は素晴らしいものになると思います。

こういったことを、豊かな自然を今よりも、もう少し生かして、他のまちから温泉に来た客をどのように引っ張るかということなので、そこをもう少し考えれば、市内の観光資源をドッキングして、観光の目玉になると思います。

次に幌別地区を中心としたまちづくりですが、幌別駅の改修と交通網の整理を行い、できるのであれば駅名を新登別駅として登別市の中心が幌別の駅だと表現したい。

今の登別駅はどうするかというと、登別温泉駅と改名をしたい。

あそこが登別駅となっていることで、市役所に用事のある人はあそこで降りてしまうという不満も結構聞いています。

列車でいうと、新登別駅に特急が止まるようになれば、エレベーターやエスカレーターを付け、駅を中心としたバスターミナルを整備することで、新登別駅に降りると、登別温泉にも鶯別方面にも鉱山方面にもバスが出ますとなり、駅を拠点として、各方面に発着することも検討したほうが良いと思う。

それから幌別駅前前の開発ですが、商店街の開発ということで、飲食店・商店の整備をしていく。

お客さんをお呼びするためには、特に夜の飲食店が今は閑古鳥なっている状態で、ビジネスホテルを誘致し、そこに泊まったお客が夜の飲食店に出歩く。

おそらく登別温泉があるからという考えもあるのですが、温泉に行くと結構金がかかりますので、温泉から離れたところで泊まれるホテルがあってもいいと思います。

それから、幌別駅からダムまでの整備が必要と考えます。

たとえば富士町地区であれば、あそこを4分類にして、高齢者が集う空間、子どもが集う空間とか、子育て中心で若い人が集う空間、娯楽を中心とした空間に分割するような、そういうまちがあってもいいのかなと思います。

それともう一つは登別市役所の新築です。

これはまちのシンボルとして、お金はかかりますが、私は登別の市役所を早急に新築した方がいいのかなと思います。

それと、全体的なお話として、人口が五万を切るようなことは絶対にしないと位置付け、五万人を維持するために、何をすればいいのかということ、しっかりと目的を持ってやらないと駄目だと思う。

何年には何人が、人口がこれだけだと減る試算を行っているが減るのが当たり前みたいに考えてしまい、本当のまちづくりはできないと思う。

どんなことがあっても五万人を切るようなことはしないんだという意気込みが必要で、そのためになにをすればいいかということは、私は浮かばないんですけども。

それと、将来的に白老町との合併ですとか、過去に室蘭市の合併も一度スタートはしたが実現できなかったわけですが、実現できなかったことを考えるよりは、新しいところとの合併を考えるべきで、白老あたりは、観光だとか漁業だとか産業構造が登別と相通じるところがあるので、合併すると素晴らしい観光のまちになるという気がします。

### ◎部会長

ありがとうございます。

具体的な話でした。

### ◎副部会長

札内地域のところで花畑という話がでましたが、道内各地にシバザクラを観光資源にしているまちがありますが、登別にもシバザクラがあったらいいなと思います。

観光資源にもなりますし、市民も当然楽しめます。

天華園の跡地とかに、植えることができないのかなと考えていました。

### ◎部会長

それでは次の方どうでしょうか。

### ◎部会員

どんなまちにしたいかという事ですが、人口にあわせたまちづくりが必要で、将来3万5～6千になるのであれば、規模に合わせたまちづくりをしていかなければならないと思います。

そのまちづくりとは何をすればいいのかと考えると、たまたま今は福祉施設に働いているので、いつも思うのは、施設に入っている人の身内の人たちが来ないという現状がある。

自分の親を施設に入れて、月に一回来ればいい方で、来ない人は一年間一切来ない人もいる。

なぜかという、今は核家族化がすごく進んでいて、自分の家には年寄りがいないのが現実で、子どもたちは年寄りを見ることがないし、話すこともない。

完全に年齢で断絶されているような状況にあります。

そういう現実があつて一番先に考えたことは、このまちは当然高齢化はこれからどんどん進むことはっきりしているし、だから人口についても、年代別にすると年寄りの世代の人口は減らないだろうけど、若い世代は減っていく。

そのような状況の中で、それを打開するのは、子どもたちにお年寄りの状況をよく知ってもらわなければならないということをまちづくりの柱としていくべきだと思います。

これはいろいろな法制度とかがありますが、たとえば保育所と幼稚園は違いますし、もちろん我々の福祉施設だって全然違います。

同じ厚生労働省の中でも違いますので、そのような垣根を取り除かなければいけないと思います。

健康な年寄りがいる、遊び盛りの子供たちがいる、そのような人たちに知ってもらうためにはどうするかというと、高齢者の施設と保育所なり幼稚園なり小学校などを1カ所に合築できないかと思います。

様々な垣根がものすごく難しいと思うが、そのようなものを作って、常に世代間の交流をしてもらいあり、難しい部分は多いが、特区か何かであればできるかなという気もします。

できることであれば子供とお年寄りが一緒に暮らせるまちを作っていきたい。

今でも幼保一元化ひとつにしても、なかなか進まない状況ですし、幼保だけではなくて幼老一元化みたいな、そういう施設を作った方がいいと思います。

このまちに住み続けたいと思うと、まずはこのまちで働く場所を作らなければならない。

年金生活者はどこに定住しても同じかもしれないが、若い世代は給料が入らなければ住めませんので、やはり大きなまちでないと住めない。

市内のお店の話しになりますが、のぼりべつの商店にふらっとみなさん入れますか。

私は入れないと思います。

気軽に入店して、店の中で年寄りがお茶を飲んで話すだとか、そういうことができる商店を作っていないとだめで、そういった昔の商店のように、子どもたちがワッと入ってきたり、年寄りが世間話をするために入ってくる、そういったなかでの商売ができるようなまちづくりをしなければならないのかなと思います。

子供たちがこのまちに希望をなくさないように、まちづくりをしていかないといけないと思います。

子どもたちがこの町に愛着を持たなければ、これ以上の発展はないと思いますので、行政がなにをすとかそういうことではなくて、我々住民が考えていかなければならないことだと思っています。

特にこのまちはサラリーマンが多く、働き場所も室蘭依存だったりしますので、室蘭に働きに出ている人は、登別のことは一切構わない傾向があります。

持家とか賃貸とかそういうこと関係なしに、働く場所がなければ室蘭へ出て行って、住まいはこちらにあつても、頭の中は室蘭になってしまう。

そういうのを少しずつ取り除いて、このまちに住んでよかった、というまちづくりをしなければならない。

当然我々も年金生活に入って、それなりに収入は入っているから、どこに住んでも同じような感じはするんだけど、ただやっぱり、登別市に住んでいるという限り、たとえば新聞で登別のことが悪く書かれていれば腹が立つというのものもある。

いいことが書いてあれば登別やっているなという部分もある。

やはりそれは登別に対する愛着を持っているということなのかなと思います。

今我々の職場の中では幼老一元化というものを目指していますが、要するに保育所と老人の施設を合体させて、年寄りというのは子どもが来るとすごく喜ぶんです。

本当に目を細めて喜ぶから、子どもの方はおじいちゃんおばあちゃんって言うてくれる。

それがまた生きがいになってくると考えていくと、ぜひ設置したいと研究をしているのですが、法律の垣根がある。

その様な垣根を無くしていかないと、先ほど言われた海水浴場をつくろうという話についても法律の垣根があって、ものすごく難しいことだと思います。

## ◎部会員

皆さんのお話を聞いていて、自分もだいたい同様の思いを持っています。

特に共通しているのは、人に関することで、働ける人、働ける場所、行き着くところはそこだと思います。

まちをつくるまえに人が大切で、そこを考えると働く場所を何とかしなければいけないということになります。

ただ簡単に雇用と叫んでも、雇用するにしてもいろいろな課題があって、そんなに簡単にはいきません。

だからといって、企業を誘致するとなってもそんなに簡単には来ませんし、そうしているうちにだんだん室蘭市みたいに9万いたのが8万になってしまうように、登別市も5万人切って4万人台に突入してしまうような流れをなんとかしたいという思いはあっても、なかなか妙案はない。

この課題はきっと登別市だけではなくて、全国的にそういう課題があるのかなと思っています。

自分が思ったのはお金の問題とかもあると思いますが、我々市民と行政の力を合わせて、まず簡単な部類から取り組むべきで、一気にハードル高くするよりも、最低限の部分でいいからイベントなどを企画して地道にやっていくのがいいのだろうと思います。

煮詰めた議題じゃなくて、小さなものを形にしてやってみようというやり方が広まっていけば人が集まるかもしれないし、ひょっとしたら、「これに関してははいまいちだったね」などと発展性もあると思います。

先ほどのお話しで、新登別駅はいいと思います。



確かに紛らわしいですし、温泉に対してではなくて、地方から来た人にわかりやすくしていかなければいけないと思いますし、登別温泉の駅前の通りを、例えば伊達市のようにきれいに整備してみてもうどうでしょうか。

まちの出口や玄関が汚いと嫌ですよ。

自分が一番このまちに人を集めることができると考えているのは、カジノを作るべきだと思っています。

こういうバカみたいな発想もこれからは必要になってくるのではないかと思います。

数が増えれば税金が増えて、やはり行政が税金を得て力を得ていかないと、まちづくりの原資も厳しいと思います。

行政の役割としては、いろいろなものを呼び込んで税金を増やして、今1しかないものを5にすれば、その分まちに使えるお金も増えていくと思います。

まずこのまちに人が来てもらって遊んでもらって、お金を落としていってもらってというのが、一番大事なのだと思いますし、その前提として雇用も必要ですし、パート、アルバイト、正社員、受け入れる企業が必要です。

確かに課題は山積みなのかもしれませんが、大きい企業も小さい企業も大事にしていけるような、そういうまちづくりにしていったら、この登別というまちは大きい企業も小さい個人のところも大事にしているな、少しでもほかのまちの人たちに感じてもらえるようなまちになっていけばいいかなと思います。

## ◎部会員

今皆さんのお話を聞いていて、皆さんと同じようなことになってしまうかもしれませんが、登別駅前の開発ということを知って、コミュニティセンターを登別駅前に作ろうという動きがあることを思い出しました。

観光客の方々をお迎えするにあたって、今の駅前には寂しいと思います。

見た目も老朽化が進んできてどうなんだろうなと思っていたところでして、駅前通りというのもほとんど壊滅したような、シャッターが閉まっている店ばかりですが、商店街もつい最近盆踊り大会をやりまして、一致団結して、商店街、登別駅前通り、盛り上げていこうよという動きも商店同士のつながりを持って一生懸命やっています。

お金があればになってしまいますが、登別の駅前の開発というのにも必要なかなと思います。

あともう一点ですが、皆さんもおっしゃっていた「人」の部分ですが、自分の話しをしますと、札幌で大学に通い、恥ずかしながら留年しまして、登別に戻ってきて、残りの単位も少なかったのだからこちらから通うという形で過ごしたのですが、はっきり言って登別に戻ってきたばかりのときは、これから本州に就職したいなとか、ここにいるのもあと一年だなという思いでしたが、ふと昔のことを思い出して、登別のまちに住み続けたいなと思いました。

きっかけは地域の方々とのつながりです。具体的にいうと小学校の時にお祭りを作ろうというグループに参加しまして、そこで地域の方たちとの出会いがあり、また地域の方々、ご近所さんでも仕事で日中いない間に家の前の草刈りしていただいたりですとか、そういうご近所づきあいなど、地域につながりを感じて生活できることが、いいまちだなと思った部分でもありますし、ほかのまちと比べて強みはそこなんじゃないかなって思います。

そこで一つの手法としてお祭りを通じて地域の方々と触れ合うのはどうかと思います。

一緒に小学生とか中学生など、一緒にやってみてつながりを深めて、まちに対して愛着を持ってもらう。

自分の今までを振り返ってみると、自分はそういう形で登別に対しての愛着みたいなものを培うことができたと思っています。

全然具体的なことは何も言えないですけど、ご近所づきあいですとか、地域の方々とのつながりを大事にしていくのが、まちに人がたくさん残る一つの方法であると思います。

### ◎部会長

はい。ありがとうございます。

皆さんからお話を伺いましたが、個人的に質問とかありましたらいかがでしょうか。

### ◎部会員

あるまちに行ったときに、お土産屋が市指定の観光案内所という地域がありました。

他のまちに行ったときに、食事をする場所など確認したいときがありますが、その案内所へ行けば当然教えてもらえるのですが、不思議とお土産物も買ってしまいます。

こういうのがふれあいというか、一石二鳥な取組みだと思います。

こちらにも喜ぶますし、店もものを買ってくれるということで、双方にとって幸せな、まちの活性化につながる手法ではないかと思っていますし、観光にも役に立つとおもいました。

本当の一般の店が案内所といったか感じで、普通の場所ですが、このような取組みが、少しでもまちが良くなるきっかけになると思います。

### ◎市庁内部会部会長

まさしくその案内所のコンセプトで、鬼なびステーションというのがあって、地域の物産を作って売るところと、町の案内をする機能を持っている。

### ◎部会員

鬼なびステーションはある場所が分かりづらく、誰もわからない。

本当は、幌別にきても温泉のことを知りたい。

驚別行っても温泉のことを知りたいとなっても、紹介できる人はいないと思います。

観光案内所というのを、案内所という形で看板を掲げていかないと観光客はわからない

と思います。

### ◎市庁内部会部会長

道の駅もそうですが、ガラガラでただポスターが貼ってあって寂しい案内所がある一方で、最近流行っているのは、まちの駅みたいなイメージで、商店そのものに椅子を置いて座れるようにして、詳しい父さん母さんが教えたりするものもある。

### ◎部会員

その様な取組みは温かみがある。

### ◎部会員

幌別駅周辺で、どこか観光案内所ありますかと聞かれて、幌別にはないと答えることになる。

### ◎部会員

僕も仕事の中で、観光客のお客さんがいらっしやって、ここあたりで登別の物産とか食べる物とかある？と聞かれたら、鬼なびを紹介している。

他は大衆食堂も近隣の商店街を紹介することも多いんですけど、シンボルとして鬼なびは結構紹介しやすい。

ただし、このまちでしか食べられないものないですかと聞かれたら困ってしまう。

### ◎部会員

食事となるとそうですね。

### ◎市庁内部会部会長

昔から培ってきた特産物があれば一番いいのだが、にわかにはまちで作って盛り上げても長続きしない。

### ◎部会員

何かおいしいものと言われても、言葉に詰まる。

### ◎部会員

鬼なびの登別牛のすき焼きとかはどうでしょうか。

### ◎部会員

登別の朝市はすごくいいと思う。

◎部会員

海鮮朝市も難しい部分が多いと聞く。

◎市庁内部会部会長

なかなか人件費の部分が苦勞する。

苦勞する割に市場に出した方が儲かるとも聞いている。

◎部会員

伊達時代村、漁港周辺の整備計画を作ったことがあるが、すべて法律の壁があって難しいことが多い。

たとえば、海岸を遊泳できるようにしようとしたら、掘ってはいけないだとか、まちの魅力を作り上げるのはなかなか困難なことだ。

◎部会員

そうはいつでも何か目玉はほしい。

◎部会員

これは登別でしかできないよ、というものがあれば一番いいのだが。

◎副部会長

市役所は地震が来たら崩れると聞くが、建替えの話は怎么样了のか。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

多くの建設費が必要となり、なかなか判断が難しい。

◎部会員

別に新しい土地でなくても、市役所の裏に建設すればいいのではないかと。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

第2庁舎のことですね。

◎部会員

そこに建設をして、今の本庁舎部分である前側に駐車場を作り、庭を作ったりする。

◎部会員

市役所建設に投資することは問題が無い。

### ◎市庁内部会部会長

だが、実情をお話すると、なかなかお金の都合は難しいです。

200億ぐらいの一般会計予算を組んで、借金しながら運営しています。

### ◎部会員

人件費と借金で、予算の半分はいつてしまう。

### ◎部会員

太陽光発電を設置すれば、10年で元が取れる。

大体20年周期で事業を計画することから、残り10年は利益が出る。

だからお金のある人はいくらでもお金がたまる。

### ◎市庁内部会副部会長兼事務局

役所の建物はお金を生まない。

### ◎部会員

だから役所も何かお金を生むことをやればいい。

アーニスのようなところを市役所にすればいい、そうすれば一階に商店があって、上に市役所があって、今の話しは単純に市役所だけとなるから、何十億もかかって資金の都合も難しい。

### ◎市庁内部会部会長

複合施設としての考え方は、これからの時代は有りかもしれませんね。

### ◎市庁内部会副部会長兼事務局

平成8年ごろにクリンクルセンターを建設しました。

そのときに経験をしたことないような借金をして建てて、今やっとその借金が終わるとい段階で、今までは何十年もクリンクルセンターの借金があるために、新たな投資が難しい状況になっていた。

たとえば今、大きな額の投資をしたら、また硬直化した財政が続く。

また、公共施設がすべて老朽化してきているので、小学校などが優先になるのかなと考えている。

### ◎部会員

国も地方に元気づけるというのであれば何か取組む必要がある。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

元気づけるというのなら、余計なことを言わないでお金を出していただきたいと思いますが、補助に関しては何か色々と条件を付けるから使えないこととなる。

### ◎市庁内部会部会長

国の交付税などは、人口が少ないですとか財政が厳しいところに再配分しているのですが、その方式自体を、たとえば子どもの人件費であれば、一生懸命学校を作って通わせても、せっかくお金をかけた子どもたちが働きに都会へ行ってしまう。

まだまだ国の制度で見直してもらわなければいけない部分もある。

### ◎部会員

ところで、登別大谷高校の跡地はどこ土地なんですか？

### ◎部会員

もともとは一部が市の土地でしたが、今は大谷高校の土地です。

### ◎部会員

あそこに市民会館を建替えるのはどうだろうか。

### ◎部会員

今の時代では、市民会館は小さい。

### ◎部会員

市民会館と市役所の一体化で建設をする。

### ◎部会員

そうすれば、お金も入ってくる。

### ◎副部長

でも、市民会館は当時の防衛庁から補助をもらっている。

### ◎市庁内部会部会長

一応、避難の施設になっています。

結局、貧しいというか、このまちだけではないけれど苦しいまちが補助金をあてにしなからやるので、補助金は補助金でルールがあって、結局思うようなことはできなかった。

### ◎副部長

やるのなら、市民会館のところに役所などがあった方がいい。

### ◎部会員

登別は今、室蘭地区からの移住者が一番多いのだろうか？

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

転入状況は転入届を出すときに細かくどこも聞くわけではありませんし、基本的には個人情報なのでトレースするのは難しい。

ただ、結構いるように感じます、感覚的な話にはなりますが。

### ◎市庁内部会部会長

室蘭自体が割と傾斜地に住んでいる、土地が無いですから。

その人たちが歳を取ったら大変だと思う。

### ◎部会員

登別に住んでいる人はいいいね、という話は聞くことがある。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

部会長、そろそろ「まちづくりとは」に共通認識を持ちたいのですが、今日ずっと色々な話を聞いていても、こういうものがあつた方がいいですとか、ああしたいこうしたいと聞けて、やはりまだ夢は描けるまちなんだと再確認しました。

その夢を掲げながらも現実を見ながらまちづくりをやっていきますし、そうは言っても夢もないまま進めるのもつまらないことですから、根底にあるのは何なのか、暮らしやすいまちなのでしょうか。

### ◎部会員

結局は人だと思う。

### ◎市庁内部会部会長

皆さんの話を聞いていてつくづく思いましたが、僕も大学で他のまちへ転出して、登別に帰ってきた時に、今まで子どもの時に当たり前に思っていたまちが違って見えました。

一度まちを出て帰ってきたら。そのとき思ったのは、将来ここに戻りたいか戻りたくないか、やはり人付き合いとか、友達がいて、暮らしがあつて、いろいろまちづくりに参加して、いろいろな人間とつながりがあつて。

もし、寝て食べるだけのまちだったらおそらく、このまちに戻ることはない。

そのなかでそれがまちづくりにどう繋がっていくか、ということだと思います。

町内会もそうで、おそらく責任を持って町内会を、ということで集まったわけじゃない。みんな、仲間があって、そのなかで一緒にやっていきたいのだと思います。

### ◎部会員

今の町内会は義務的な町内会だと感じる。

昔の町内会というのは、隣近所が集まってできた、自然発生的なものだったと思うが、自分たちの住んでいるまちをどうするかっていうのは、自発的に役割を決め取り組みを行った、今は口では同じようなことを言っているが、住民の意識が違う。

### ◎部会員

昔は町内会のつながりはものすごく強かった。

温泉に一泊するような行事があれば皆喜んで参加した。

そういうことが今無くなってしまっている。

### ◎部会員

我々の町内会でも祭りをやるが、お祭りで寄付を頼むと、いろいろ言われたりする。

子どもは出すけど手伝いはできないといい。であれば寄付をしてくれとなってもだ。

### ◎部会員

協働のまちづくりということを掲げているのだから、協働のまちづくりという考えでどういうまちを作れるかということをもう少し掘り下げて議論して、そこから支え合いとか助け合いとか、そういうものを結び付けていって、人のつながりを強くしていくとか、そのために何をすればいいかと考えなければならない。

協働のまちづくりは、町内会の立場で言えば、だんだん仕事が増えてきただけだと町内会長が怒るけど、そう言いながらも、公園だとかそういうのは自分たちでやるとか、冬場の雪はねを地域でやるとか、道路の砂まきを町内会でやるとか、そういう方向にはだんだんと来てはいる、なんだかんだ言いながらもではあるが。

### ◎市庁内部会部会長

でもそれは、町内会の義務ではなくて、何かネットワークがあって、その中で一緒にやっというのはいいいけど、義務感だけではなかなかうまくいかないと思う。

何かやはり町内会という、人間が支えあうなかでつながっているんじゃないかなと思う。

### ◎部会員

町内会活動はすべてボランティアだということに壁がある。



多少は飽をなめさせて、これだけやったら皆で温泉行けるとか、焼き肉パーティができるとか、そういう風になっていくべきだ。

## ◎市庁内部会副部長兼事務局

楽しみはあるかもしれない。

昔からまちづくりはひとつづくりとか、よくそういう言葉は言ってますけれども、今の話をずっと聞いていると、人間の心根を変えないとだめだ、みたいな話になってしまうような気がします。

何かの講演会を聞きに行ったときに、役所が手を出しすぎるから、住民が協働で何かをやりたいという仕組みが薄まった。

たとえば、役所はここまでしかやりません、何を言ってもやりませんよと言っている、自分たちが困れば困った人たちどうして話し合う、それで連携する。

手を出しすぎるから全部やってしまうんだと。

結構まちづくりで進んでいる地域の話だったのですけども、だから最低限どこまでやるのかというのを決めるべきだ。

でもそう言いながらこのご時世では手を出さざるを得ない部分も多い。

そこが大きなジレンマだという話を聞いたんです。

でも、うちのまちはそういうところには戻れないと思います。

皆さん行政はここまでしかやりません、もうここまでしかやらないから後は自分たちでやってね、といっても、なんなんだという話になる。

今更そういうところには戻れない。

戻れないのであれば、どうしたいのというところだと思うんです。

うちのまちは何が必要なのという事だと思います。

## ◎部会員

協働のまちづくりとは、やはり行政がやること市民がやること、それぞれを色分けして、できることはやましようというのがそもそもの始まりだと思う。

市役所の事業は、おそらく5～600あると思うんですが、一つずつやっていることを検証すれば、そのうち、これとこれは市民に協力してもらえれば何とかなると考えられる。

そういうことが何も見えないから難しいとなる。

行政はそれを市民にやってもらいましょうといつて、除雪作業とか、草刈りだとか、会館の管理などをお願いしてくる。

いっそのこと全部表に出して、全部仕分けをして、そうすると市民がやってくれば行政はこれだけ改革できた、そうすると今いる職員を10人減らせる。

そうしたら、例えば一年間に五千万円の金が浮く。

そのうちの半分は市民に還元しますよ、それでも 2500 万円は役所としてはメリットがある。

そういうものをしっかり形にして表せば、市民は協力すると思う。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

それも一つの手法だとは思いますが、たとえば一つの家族としてみたときに、口減らしをしていかないと成り立たないような家はもう厳しいんだと思う。

全国的に役所の職員の給与を減らせ、職員数を減らせばどうにかなるといっていたら、役所は役所で人間だからモチベーションは低くなる。

今度は仕事をやる人のところにだけ集中して行って、やらない人はやらない人で今までどおりでいるとなると組織として疲弊していくと思う。

市民の方に委託をしましょう、それは今まで行政が責任を持ってやりました。

やってあらゆる苦情も受けて、責任をもってやってきたものを、市民にやってくださいとなったときには、その責任も苦情も全部市民に受けてもらわなければならない。

それが、責任ですので、それで最低限同じ成果は出してくださいとなった時にそれはやはり契約社会になると思う。

なったなら請け負えるのかというところをきっちり話し合ったうえで、やるべきだと思う。

### ◎部会員

それは役所的な考えで市民や企業はみんな責任を持ってやっている。

### ◎部会員

当然責任を持ってやっている。

行政に携わっている人間は、理解できないと思う。

そこがまさに民間と行政の違い。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

僕が言いたいのは、行政がやっているのは基本的に儲けにつながらない仕事をやっている。

その儲けにつながらない仕事というのは、平等にやらないといけないので、儲けにつながらないし、あまり突飛なこともできない。

だから役所が担っていて、それ以外にちゃんと儲けにつながって、色を出しながらできるのであれば、民間はとっくの昔に参入しているはずです。

それであれば行政はもういいねと、今まで手を引いてきた業務はいっぱいあります。

でも、未だに残っているということは参入してこないということであって、それを、じ

やあどうですかと投げかけ、委託をかけて、当然委託をかけるのであれば安いところにか  
けたい。

そうやってできるんですか、儲けようとか考えられないからねとなったら、難しいです  
よねというのが根本です。

### ◎副部長

行政がやらなきゃいけないことは、それは、わたしらではきびしい。

何よりも、行政からこれはどうだいではなくて、市民が論議してこれならできるという  
論議である必要がある。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

それはありだと思う。

逆に、行政がこれはどうだいという前に、それをやれるのであれば民間はやっている。

だから、やればいいし参入すればいい。

それであれば、行政はすぐに手を引くこととなる。

### ◎部会員

役所的発想というのは、人の問題とかいろいろあるんだけど、たとえば、勤務時間だど  
か、8時間労働ですよ。

だけど民間は8時間にプラスがある、おかしなことだけど。

そういった部分で100人いたら一人か二人は減らせる。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

そこがそれこそ役所的発想で、そういうことを言えないのが役所。

民間だったら公にはできなくても結構過酷な状況で働いていたりとか、もちろん役所も  
今は似たような状況ですけど。

でも、それは公にそういう状態でやってくれとは役所は言えない。

### ◎部会員

今はそのような労働条件が当たり前だ。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

結局、労働条件など、役所がそこを崩して、ブラックな企業になってしまったら、じゃ  
あ何が基盤になるのとなる。

民間企業の基盤が崩れてしまうから、役所は正解というか王道的に取組むことは、不条  
理なのかもしれないけれどやらなければならないところがあると思います。

だからもっと効率的にできるんじゃないのかといわれても、そのあなたの言っている効率的というのはどの辺を言ってますかと聞きたい。

民間で言う効率的というのはどういうことなのかと思います。

それを役所でやってしまったらよりどころが無くなってしまう、それでいいのでしょうか。

例えば労働基準監督署が残業代を出さないで、民間は残業代出さないのが当たり前だから残業代なしで働け、ということは絶対にやらないと思います。

### ◎部会員

例えば、役所から出す郵便物についての取組みだが、登別では11の地区に分かれていて、そこに地区連の会長が必ずいる。

だから11のボックスを市役所に作って、二日か三日に一回その地区の人が来て、自分の地区を配送する。

そうなると役所は一番初めに考えるのは、誰が責任を持つのかとなってしまう。

そうなってくると話は全然進まない。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

でも、やるんだったら、二日に一度ではなくて、毎日だとか一日二回やってくれとか、今までそうやって郵便局とかクロネコのメール便とか、お願いしているとおりにやってくださいとなる。

それを二日に一度で、今日は体調が悪いから明日にしていかなとなったら、それはサービスの後退だと言われる。

例えば連町にそれを委託する、今までどおり同じ状態でより良くするとなつて、届かなかったら届いてないと言ってるから対応してくださいと業務の全部を、お願いしますというところだと思います。

当然責任は民間がとると思うんですけど、クレーム等は、役所に言ってくれというのはない。

そこまで請け負ってくださいというのがやはり委託であり責任を持つという事です。

### ◎部会員

私が言いたいのは、協働のまちづくりを基本に登別市はまちづくりをやっていくと、資料にも協働のまちづくりが一番に載っているのだけど、そういう壁を打破してやらないと、協働のまちづくりといったって限界があつて、本当にどうでもいいようなことしかできない。

もう少し責任を持って、行政が言うすべての人に平等とかそういうことじゃなくて、それによってメリットがあるなら、平等を欠くかもしれないけれどもやるとか、やった人間

に責任を持ってもらうということで変えていかないと、今あるものをそのまま持って行って協働のまちづくりだよと言葉だけ言っても意味が無い。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

協働というのは、役所がやっている事業を市民も請け負いながら同じことをやっていきましようというのが協働ではない気がする。

例えば単純に言えば、役所が新しい公共施設を建てようと思っていますとなって、土地はこれぐらいで、お金はこれぐらいで、これぐらいの機能ですとします。

4階までありますので、1階は市民がまちの活性化のために、市民で、地域でデザインして、考えて、きっちり責任を持って運用してください。

そこを担うのは市民です、お金とかは出します。

それで責任を持ってやるとか、そこに建物を建てるときにいろいろなデザインだとか要望だとかそういうものを聞くというのも、共同で役所が一方的にこのように運用します、意見は聞きませんというのは協働のまちづくりではない。

であれば、そういうところなのかもしれない。

最終形は今聞いたお話しみたいのもあるかもしれないが、今はそういう状況ではないから、そこまでの最終形を求めてやってしまったら、壁が高いと思う。

ですから、今はこういう形の会議のあり方とかが、協働のまちづくりの一つだとするのであればどうでしょうか。

### ◎市庁内部会部会長

両方の負担の分かち合いだけではなくて、一緒にきめ細やかで、行政が一方的に行うのではないサービスをやって、皆で話し合っただけはこうした方がいいというのがいわゆる協働の部分。

それで、除雪の関係とか労務が主になってしまうと、現実的にそこまで責任は負えないので、それだったら町内会の役員を辞めるとなってしまうと思う。

もっとサービスのあり方として、行政だけではなくて、皆で参加して一緒に考えて、こういう風にやったら、もっといいアイデアがあるよとか、そういう部分を中心として考えないと、あまりにも負担になってしまう。

### ◎部会員

要は行政がやる部分も民間がやった方がうまくいくという事業はいっぱいある。

それが本当に協働であって、役所でだけやっているからこんなに壁ができていんだと、民間だともっと壁は低いと。

ただ、さっき言ったように、8時間労働だけど少しやれというのも、役所は言えないけど民間なら言えるですとかそういうものもある。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

例えば、保育所や幼稚園は今まで市でやっていました。

民間でも幼稚園がいろいろあります、それは行政が手を出さなくても民の中でできます。

ですから、役所は市立の幼稚園はやめました。

それは協働のまちづくりというよりも、民間の活力を活用しながらやっていくわけですから、それはちょっと視点が違うと思います。

協働って何、というのが決まらないのは現実だと思います。

### ◎市庁内部会部会長

時代とともに変わっていくし、協働というか、行政と市民が担う責務というのは今までの何十年で相当変わっている。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

ただ、今みたいな話を聞いている限りでは、役割分担をするというのは誰もが同じことを言っているような気はします。

行政がやれるところや民間がやるところ、市民がやるところという役割分担は変わらな  
いのかなと思いますので、まずはそれを軸にして話しをしていかないと進まないと思いま  
す。

### ◎市庁内部会部会長

そしてその役割分担をする前に、先ほどの人と人とのコミュニティというつながりが無  
かったら、その役割分担さえもできない。

### ◎部会員

市民は協働で何ができるのという部分は、行政から示さなければいけない。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

何ができるのか、それを一緒に考えるのが協働ではないのか。

行政から示して、これが模範解答ですので協働でやりましょうというのは協働ではない。

### ◎部会員

市民が役所に対してこれは協働でできるんじゃないか、協働でやりましょうなんてこと  
を言えといわれても言えない。

協働じゃないかもしれないけど、役所がリーダーにならないとだめだ。

もともと協働のまちづくりって、市民が考える団体とか組織だからと一番最初に投げか

けられて、結局はその結果が、市民自治推進委員会でさえも継続できない。

私も参加していたが、そこはある程度行政がコントロールしてやらないと駄目じゃないか。

協働ということはこういうことなんだよ、だから皆さんが協働でやることはこういうことだということを絵に描いてでも示してほしい。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

それを本当に示したら、自分たちはちょっと意見が違うけど、役所が言うならそうだと市民はなってしまう。

### ◎部会員

なるかどうかわからない。

### ◎部会員

市民がこれをやりたいと役所に投げかけて、話し合うのが協働だと思う。

市役所がこれをやりたいから市民はこれをやれではなくて、市民が、住民がこういうことをやりたい、でもこれとこれは難しいから、市役所でできるかなというのが協働ではないのか。

### ◎部会員

そこが感覚の違いで、町内会というのは、やらなくていいならやらなくて済む。

自分を犠牲にしてでもやる人、やりたいけど時間がないから協力できない人、まったく関係ないという人、そういう人たちの塊が町内会だ。

そういうところが自らこれはやるべきだ、やりますよ、なんて言わない。ばからしくなってくる。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

よくわかっていると思うけど、例えば、何かの計画を作りますとか、物を作りますとか、こういう事業を始めようと思ってますとか、それで市民の皆さんと意見交換をしながらやっていきたいと思えますとなったとします。

ここまでは大体同じです。

そして、役所の方で案を作ってきました見てくださいますと、単純に賛成の場合と、青函作ってきたのなら、すでに答え決まってるんだろうという話になるのと。

逆に何も作ってきませんでした、皆さんで考えてくださいますと、何もないまま丸投げするのかという話になる。

それを両方見てきているからどっちなのかと思います。

中途半端に半分だけ作ってきたんですけど、あと半分だけお願いしていいですか、という話にはならない。結局、人によるし、場合による。

### ◎部会員

やる気のある人間を入れればいい。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

まさか、今回基本計画を作ります、やる気のある人だけ来てください、あの人はやる気がないから駄目ですとは言えない。

何かを協議する時にやる気のある人だけ来てください、もちろん応募してくる人は皆やる気があるのだろうけど、自治推進委員会だって皆やる気のある人ばかりだった。

### ◎部会員

そこを打破してやっていくためには、誰かがリーダーにならないと。

### ◎部会員

リーダーは住民だと思う。

市役所はお手伝い、知恵袋的な存在だと思う。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

まちづくりの主役は市民ですと言い続けているのですが。

### ◎部会員

やりながら考える、物事はいろんなやり方があるから、これが協働だよというようなものは難しい。

### ◎副部長

より多くの情報を持っているのは行政の方だから、それは惜しみなく出してほしい。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

結局、役所は組織ですので、基本的にトップがこう決めたとなればその通りになります。

でも、市民側というのは、連町の会長がこう決めたといっても、全部会長の思うままにはならないですね。

みんながばらばらで、役所はどっちを向いて話をすればいいのかとなってしまう。

会長の話を聞けばいいのか、他に声を上げている人の話を聞くのか。



そうなるとちょっと会長と話し合っるといいくなります。  
結局住民との協働のまちづくりというのはそこが難しいんだと思う。

### ◎部会員

そこを解決しなければならない。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

どうやって解決すればいいのか。じゃんけんで、というわけにもいかない。

### ◎部会員

解決できないとしても、方向は示さないと進まない。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

記憶にあると思いますが、自治推進委員会の時に、みんなで採決を取ります、民主主義なのでと言って採決をとって、次の日になったら手を挙げていないとか、そういうのがよくあったと思います。

どこでどうやって決めたらいいのか、一筆取るのかと思いました。

### ◎部会員

協働のまちづくりということは全く関係なくして、このまちをどういうまちにするかということを進めていって、最後にこれは協働でやるしかないとかなるべきで、初めから協働で何ができるのとなると、今みたいなことになってしまう。

協働ということは関係なく、登別のまちをどうするのかということのを皆で作りに上げて、そして最後に協働をそこに加えたらいいのではないか。

### ◎部会員

個人的に協働と聞いて、こうしてくれたら嬉しいなという個人の感想なんですけど、例えば自分は全然知識がないので、こういうことをやりたいと思って、はっきりいってそんなの無理に決まっている無理だ、ではなくて、こういうことをやりたいんだな、それならこういうやり方はどうでしょう、こういう風な手段を取ったらどうだと提言してくれればありがたい。

そういう風にサポートしてくれるのであれば心強い。

### ◎市庁内部会部会長

協働と言いながらも、担うものは違うと思う。

市民の意見を吸い上げて、仕組みなどを知識を持って形にするのが行政だろうけど、同

じ話し合っ、同じテーブルに立っ、というとちよっと違っ。

それはどちらが上とか下とかではないけれども。

だから、その辺は分けて考えないとなかなかできない。

### ◎市庁内部会副部会長兼事務局

市役所は何をするところか、というのが年々よくわからなくなっきていて、どこまでやるところなのかなと思っます。

昔は市民の役に立つところが市役所だと言われ、そうはいいながらも、うちの前の犬の糞を拾っていけとかいわれるとよくわからなくなる。

### ◎副部会長

実際にこの計画にかかわっ、事務事業とか考え方などを理解することができ、そのエッセンスをこの計画の中に少しでも整理して盛り込まなければいけない。

### ◎市庁内部会副部会長兼事務局

あとで最終的な提言書を作っ、皆さんの思っをこういう風にまとめましたよと皆にお示ししたいと思っます。

### ◎部会員

根本的には登別に住んでみたい、行ってみたい、そういうまちをどうやったらできるかが根本だと思っ。

### ◎部会員

それが人口減の歯止めにもなるし、役所に税金も入っくる。

そこを基本にして、何をすればいいか。

その中で協働でやるところはしっかり取り組んでいく。

できれば、せっかくの登別の自然を生かしたまちを考えてほしいなと思っ。

### ◎部会員

このまちには温泉もあるけど、他にこれもあるというまちづくりをすべきで、温泉含め三本柱ぐらいで、長いビジョンで見たまちづくりをしていけばいいのではないか。

### ◎副部会長

子どもたちがどういっ思っなのかをすごく知りたいし、その子たちが子どもの間に、まちづくりに関われば、その子が大きくなっ時に気になっと思っ。

自分の提案した内容が何かに生かされたりすればなおのことだと思っ。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

そういっても、自分たちが子供のころを考えても、まちの財政状況を考えながら自分は将来何になろうとか考えている子はいませんので、現実には野球選手になりたいとか、東京ドームがあったらいいとかでしたよね。

まずこれからの政策は、子どものためにやっていくところに軸足を置くのか、それとも高齢者が増えていくから高齢者に軸足を置いていくのか。

このまちは両方に軸足を置いていく体力はないと思います。

### ◎副部長

子どもだと思ふ。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

そうすると、高齢者には我慢してもらわなければならない。

それは、連町などに説明するときに、どう説明すればいいか。

### ◎部会員

人口減の対策には、子どもが大事とは思ふ。

### ◎市庁内部会部会長

でも、結局最後に役所はどっちも大事と言ってしまふ。

### ◎部会員

役所はそういうわけにはいかないから。

でも、普通に考えれば、年寄りには後だなと思ふ。

### ◎副部長

でも、子どもだけ大事にするとは言えないけど、子どもたちを大事にするまちづくりをしたいとは言えると思ふ。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

言えるが、よく議会などでも重点ポイントを絞ってまちづくりなど、まちの設計書を書くべきだという話はでるが、本当に絞っていいのかとは思ふ。

### ◎副部長

その議員は絞りたいと思ふてそう言っているのか、自分のポリシーはどうなのか。

### ◎市庁内部会部会長

最低限、皆さんにサービスが行き届いて、余力があって重点を絞るのであればいいんだけど、そのような状況でもない。

### ◎市庁内部会副部会長兼事務局

どこかを崩していかないと、等しくとはならないので、ここを削ってここを持ち上げましょうというのが、こののまちの現状なのに、何もないところから持ち上げてくれとなっても、どこから原資が出てくるのとなります。

### ◎副部会長

そのときは、財源はどこからどうしようか提案したうえでとて言えればいい。  
どうしたらいいのだとか、自分としてはどうしたいということがなければいけない。

### ◎市庁内部会副部会長兼事務局

こうありたいとか、こうあってほしいと我々は思っている。  
ただ、現実としては難しいところもあると思うから、まずはやれるところからしっかりやってくれという書き方であればいいと思いますが、よくある要望書のように、言っている本人も難しいと思いつながら、要望してやってくれとなったら、それは本当に身動きが取れなくなってしまいます。

### ◎部会員

そういう書き方で進めていくしかないと思う。

### ◎副部会長

さっき出た、カジノはやらないのですか。

### ◎市庁内部会部会長

カジノの特集を見たことがあります、国の観光政策で特区としておこない、まあ良い部分も悪い部分もある。

### ◎市庁内部会副部会長兼事務局

この部の、こういう部を設置していた意味としては、一方的に皆さんの意見を聞いて、はいわかりました検討します、では何の意味もありませんので、行政の状況を伝えたいので、あなただったらどうするんですかというのをお互い考えてもらわないといけないと思っています。

それぞれ立場があってそれぞれ縛られているものがある、その上で話をしないと全然

話は進まない。

だから、それには時間をかけるべきだと思いますし、こういう場が生きてくるのだと思います。

だから、行政としてはこのような理由で厳しい、いやそこは行政でやれると思いますよですとか、市民はどうなのということを話していかないと、いつになっても歩み寄れないと思う。

こういう場を様々な機会を持って、話し合っていくことが協働のまちづくりだと思います。

ちょっとでもお互い歩み寄って、これならできるとかやらないとだめで、それには本音の話もある程度必要だと思っています。

### ◎部会員

行政と我々の、些細なもの、やれそうなものを模索してそれをやり始める。

### ◎部会員

極端な話であればカジノもいいと思う。

まずそれよりも現実的にできる人を呼ぶための産業を増やしていく。

そうすればおのずと人は増えてきて、やはりできることから皆で考えていかないと、まちづくりは進んでいかないと思う。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

今後の進め方ですが、おそらく「まちづくりとは」や「協働とは」というのは、思いのほか定まらないということはよくわかりました。

ですので、ここの話をすると何年も、たぶん根負けした話になると思います。

まあいいか、何となくそういう気になってきた、という状態で決まりそうなので、それでは嫌ですので、とりあえずこの部分を先送りにして、まちづくりを担う個人や団体の育成支援ですとか、行政の情報化推進ですとか、先にそちらを話し合いながら、最後にまたまちづくりの内容に戻ってもいいのかなと思います。

そういうことでどうでしょうか。

前に国際交流はやっていますから、同じような感じでまずやれるところからやっていきたいと思っています。

### ◎部会長

それでは9月12日に次回の部会を行いたいと思います。

本日はこれで終了します。